

看護の夢を追い続けよう —自分らしく歩んでゆこう—

中嶋 真紀子（東京女子医科大学病院）

今回看護の夢を追い続けようというテーマを頂き、改めて自分が辿ってきた道を振り返るよい機会となった。学生時代はそれこそ自分が看護師になれるだろうか、不向きではないかと思うことも度々であった。資格を持ち働き始めると、学習し身につけなければならないことに追われ、その責任の重さを実感するとともに、看護の楽しさにも引き込まれてきた。いのちを救うこと、そして生きるということ、本人や周囲にいる人間の気持ちの揺れ動き、患者に寄り添うことの難しさ、自分達が直面するすべてのことから学びや感動を得ている。そして看護の中から得られた学びや感動から、看護師は自分自身のあらゆる可能性を伸ばすことができる素晴らしい職業であることを感じている。そしてここまで頑張れたのは、周囲の支えがあったからである。何もわからずできなかった自分に指導してくださる先輩や、話を聞いてくれ励ましあう同僚や家族がいたからこそやってこれたのだと思う。

また仕事と家庭の両立を果たすためにどうすればよいかは、その人の置かれている環境や考え方によって様々な意見があるかと思う。私自身は家族や周囲の協力もあり恵まれた環境で仕事も育児もしているが、それでも自分が思うようにできず、時には仕事か家庭のどちらかを犠牲にしなければならない時もあり、葛藤することもある。しかしそのような時に仕事において、家庭において大事にしているものが自分自身で明確になっていれば、それが気持ちの支えになると思う。すべて完璧にやろうと思うと息が詰まってしまうが、今自分にできることからやってみよう、できないことはどうしたらできるようになるかを楽しみながら考えてみることも大事なことかと思う。

これからも一人の人間としての幅を広げながら、看護を通して、生きること、感動を追い続けてゆきたい。
